



【問合せ先】

第七管区海上保安本部  
交通部 安全対策課長  
古場 芳樹  
TEL 093-321-2931(内線2640)

令和5年1月17日

第七管区海上保安本部

**船舶海難・人身事故ともに減少！！**  
～令和4年の船舶海難・人身事故の発生状況（速報値）について～

令和4年第七管区海上保安本部管内における船舶海難・人身事故の発生状況は、

船舶海難は310隻で前年比28隻の減少

人身事故は235人で前年比36人の減少

となり、いずれも過去10年で最少となりました。

※ 令和4年の値は速報値であり、今後変更される場合もあります。

※ 説明文中〈 〉内は、令和3年の値です。

【船舶海難】（別紙1及び2参照）

令和4年は、310隻<338隻>で28隻減少しました。

死者・行方不明者数は1人<11人>で10人減少し、内訳はプレジャーボートの1人です。

船舶種類別では、

プレジャーボート 135隻<163隻> 28隻減少

うち、ミニボートは14隻<24隻>

漁船 80隻 <87隻> 7隻減少

貨物船 39隻 <30隻> 9隻増加

海難種類別では、

衝突 57隻 <95隻> 38隻減少

運航不能（機関故障） 51隻 <54隻> 3隻減少

乗揚げ 38隻 <33隻> 5隻増加

となっています。

船舶海難の発生状況を見ても船舶種類別では、海難の大半を占めるプレジャーボート・漁船が減少し、貨物船が増加、海難種類別では衝突、運航不能（機関故障）が減少し、乗揚げが増加しています。

## 【船舶海難の事故事例】

### 旅客船の火災！～北九州市消防局と協力して救助～

事故船舶（旅客船）は、4月27日午後1時30分頃、乗組員2名の他、乗客等43名乗船のうえ、北九州市小倉北区所在の砂津港を出港し、視察目的で若松ひびきコンテナターミナル向け航行中、小倉北区所在の日明沖で乗組員が機関室から出火を確認、航行不能となったことから、運航会社を通じ118番通報を行った。

巡視艇及び北九州市消防局の消防艇が乗組員及び乗客等45名を救助するとともに、消防艇が消火活動を実施して鎮火確認がなされた後、事故船舶は巡視艇により曳航され、北九州市門司区所在の門司港に入港した。

曳航時の状況



火災船の状況



### 船舶火災発生！～火災により沈没～

事故船舶（プレジャーボート）は、5月13日午後7時5分頃、船長他1名乗船のうえ、鳥取県境港市から福岡向け回航中、冷却水の温度が高いことから停船したところ、排気口から黒煙が上がっており、機関室内を確認したところ火災が発生していた。

船長は、状況から機関室に近づかない方が良いと判断し、ライフジャケットを着用のうえ、直ちに118番通報を行った。

その後、船首甲板に避難していたが、火が広がったため、船長と乗組員は防舷物を持って海に飛び込んだ後、30分程海に浮いていたところ、本部運用司令センターから要請を受けた付近航行船舶に救助された。

事故船舶は、火災による影響で、海中に沈没した。

### 水上オートバイからの海中転落～戻れずに漂流～

事故者（男性）は、8月21日午後1時30分頃、食事等で立ち寄っていた福岡県宗像市神湊付近から1人で水上オートバイに乗船して遊走に出たのち、同日午後1時40分頃、同市所在の勝島付近で一旦漂泊し、水上オートバイの物入れからジュースを取ろうとした際、誤って落水したものの。

事故者は水上オートバイに泳いで戻ろうと試みるも風潮流の影響でどり着けず、自身も風潮流に逆らえず南西方向に流されたため泳ぐことを諦め、波浪に身を任せ漂流していた同日午後9時頃、福岡県福津市所在の白石浜海水浴場へ漂着し、怪我等なく無事であった。

水上オートバイは8月22日、福岡県福津市所在の鼓島に漂着した状態で発見された。

事故者が使用していた水上オートバイの漂着状況



### 大変危険！～ミニボートでの大航海～

事故船舶（ミニボート）は、9月3日午後1時頃、男性1名乗船のうえ香川県を出港し、観光目的で瀬戸内海から豊後水道を經由し鹿児島県屋久島に向け、途中各地に立ち寄りながら航行していた。

同船は、9月9日午後5時頃、大分県大分市佐賀関所在の海岸にボートを陸揚げし野営をしていたが、場所を移動するため、同日午後9時頃、懐中電灯のみの灯火で出港し、航行していた同日午後10時30分頃、船外機が停止し航行不能となったことから、118番通報を行った。

その後、事故者は、大分県水難救済会所属の船舶により救助された。



## 【人身事故】（別紙3及び4参照）

令和4年は、235人<271人>で36人減少しました。

死者・行方不明者数は117人<114人>で、3人増加し、内訳はマリンレジャー以外の海浜事故が71人<72人>、船舶海難によらない人身事故が28人<20人>、マリンレジャーに伴う海浜事故が18人<22人>です。

事故区分別では、

マリンレジャー以外の海浜事故	111人<119人>	8人減少
マリンレジャーに伴う海浜事故	50人<74人>	24人減少
船舶海難によらない人身事故	74人<78人>	4人減少

マリンレジャーの活動内容別では、

釣り中	30人<35人>	5人減少
遊泳中	12人<28人>	16人減少

となっています。

人身事故の発生状況を見てみると事故区分は何れも減少し、特にマリンレジャーに伴う海浜事故が全体で24人減少し、このうち遊泳中の事故が16人減少しています。

## 【人身事故の事故事例】

事故現場の状況



残された釣具



### 生死の分かれ目！～救命胴衣の着用の有無～

事故者A、B（ともに男性）の2名は、10月7日午前6時頃、磯場で釣りを始めたが、約10分経過した頃、突然の大波に襲われ、事故者Aが海中転落した。

このため、事故者Bは直ぐにロープを投げ入れAを救助していたところ、再び大波に襲われ救助中のBも海中転落し、両名とも海上において漂流状態となった。

この時、Aは救命胴衣を着用していたが、Bは救命胴衣を着用しておらず、Aは身に付けていた防水パック入り携帯電話で118番通報するとともに、Bの身体を確保し救助を待っていたが、波に揉まれるうちにBと離れてしまい、そのまま見失った。

同日午前8時25分頃、Aは漂流しているところを捜索中の水難救済会所属の船舶により救助され、一命をとりとめたが、Bは10月15日に遺体となって発見された。

### 磯場からの海中転落！～備えたおかげで無事救助～

事故者（男性）は、11月26日午後零時50分頃、職場の同僚と二人で磯釣りへ向かう途中、海面が腰の高さ程度の磯場を歩いて移動し、岩場が上がろうとしたところ、足を滑らせ転倒、そのまま沖側に流されたもの。

一度は自力で岩場が上がろうと試みたものの、事故現場の潮流が速かったため、岩場に戻ることを断念し、漂流状態で救助を待つこととした。

同僚は、職場経由で海上保安庁に救助を要請するとともに、事故者自身も身に付けていた防水パック入り携帯電話から、118番通報を行い、現場に到着した巡視艇により無事救助された。

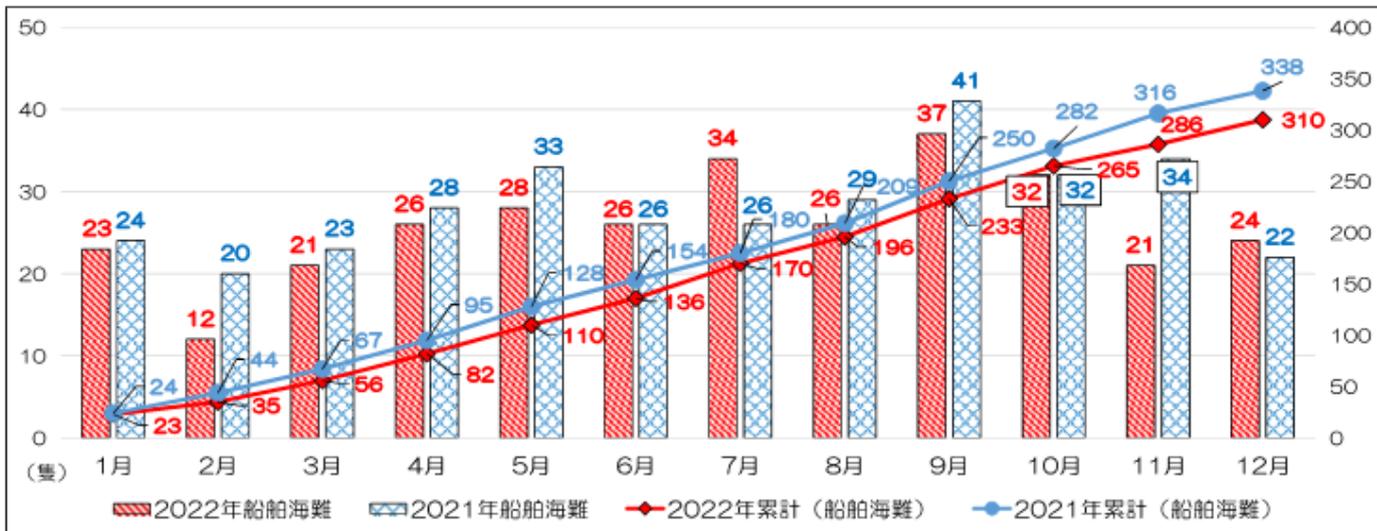
救助中の事故者



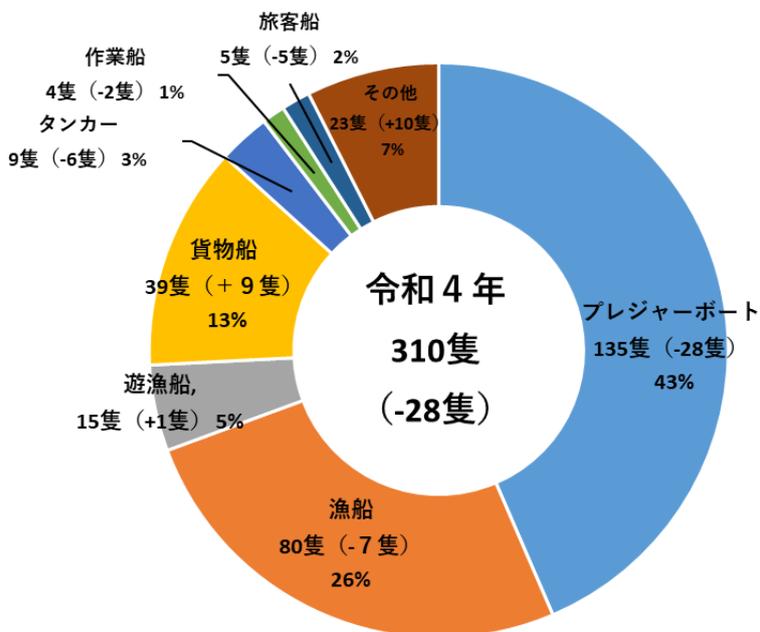
船舶海難の発生状況

2022年は速報値  
2021年は確定値

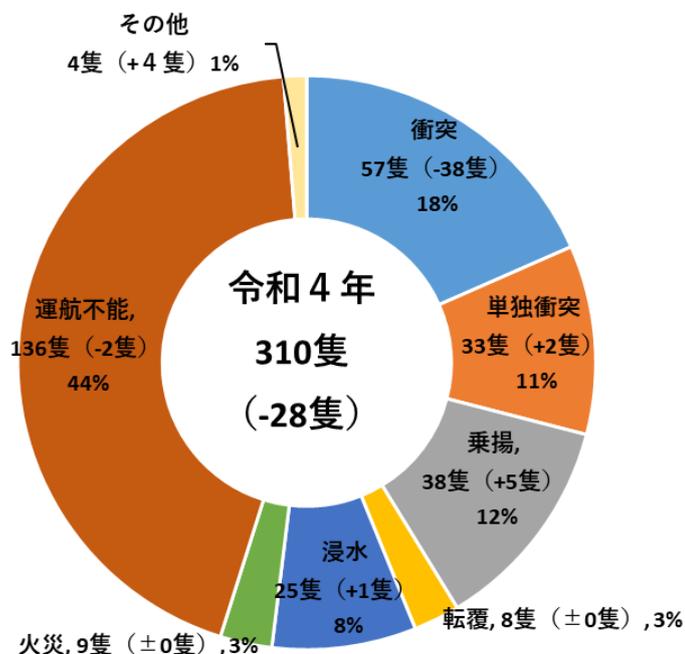
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2022年船舶海難	23	12	21	26	28	26	34	26	37	32	21	24
2021年船舶海難	24	20	23	28	33	26	26	29	41	32	34	22
前年差	-1	-8	-2	-2	-5	0	8	-3	-4	0	-13	2
2022年累計（船舶海難）	23	35	56	82	110	136	170	196	233	265	286	310
2021年累計（船舶海難）	24	44	67	95	128	154	180	209	250	282	316	338
前年累積差	-1	-9	-11	-13	-18	-18	-10	-13	-17	-17	-30	-28



船舶種類別発生状況



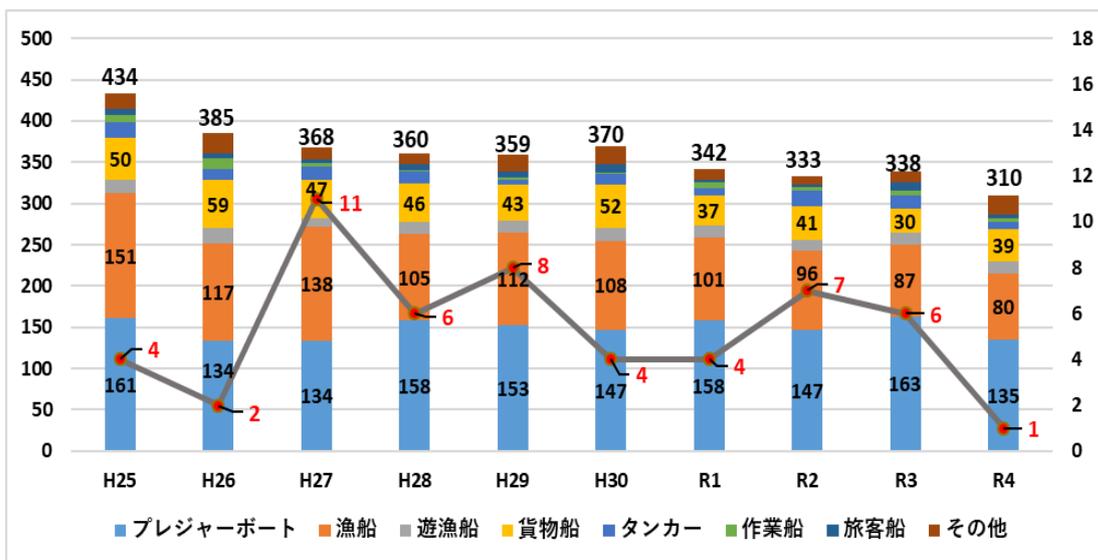
海難種類別発生状況



※1 船舶の用途の「その他」は練習船、監視取締船、軍艦等

※2 海難種類の「運航不能」は、推進器障害、舵障害、機関故障、バッテリー過放電、燃料欠乏、ろ・かい喪失及び無人漂流、走錨及び荒天難航等を含む

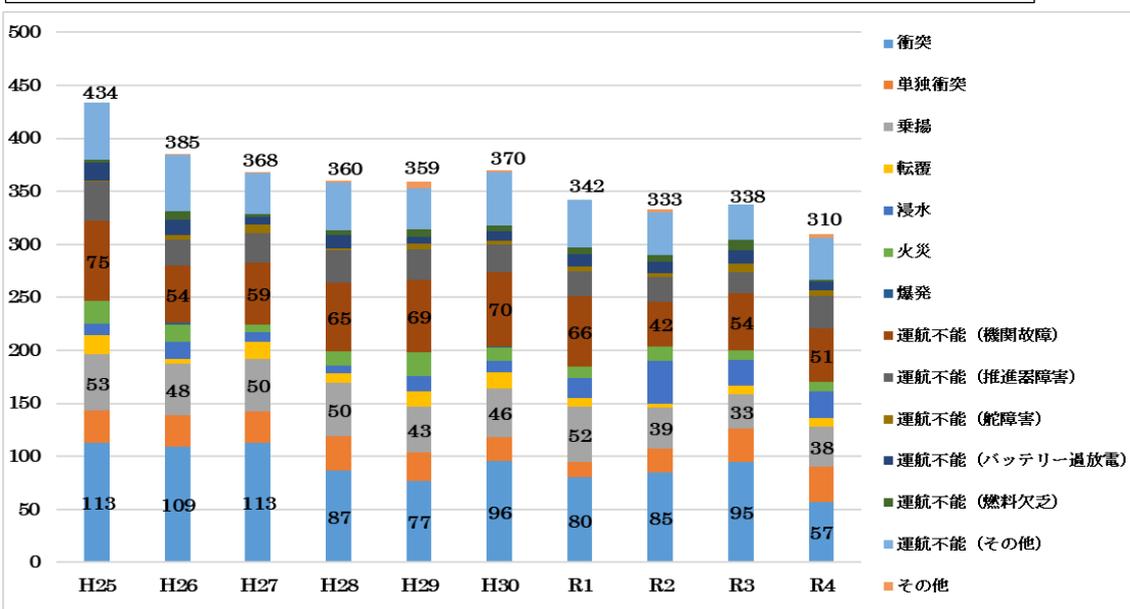
船舶種類別発生状況（過去10年間（H25～R4）） R4は速報値：令和5年1月1日現在  
 ※赤字は死者・行方不明者数



ミニボート海難の発生状況（過去10年間（H25～R4）） R4は速報値：令和5年1月1日現在

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
ミニボート	9	11	5	9	10	11	17	13	24	14

船舶種類別発生状況（過去10年間（H25～R4）） R4は速報値：令和5年1月1日現在



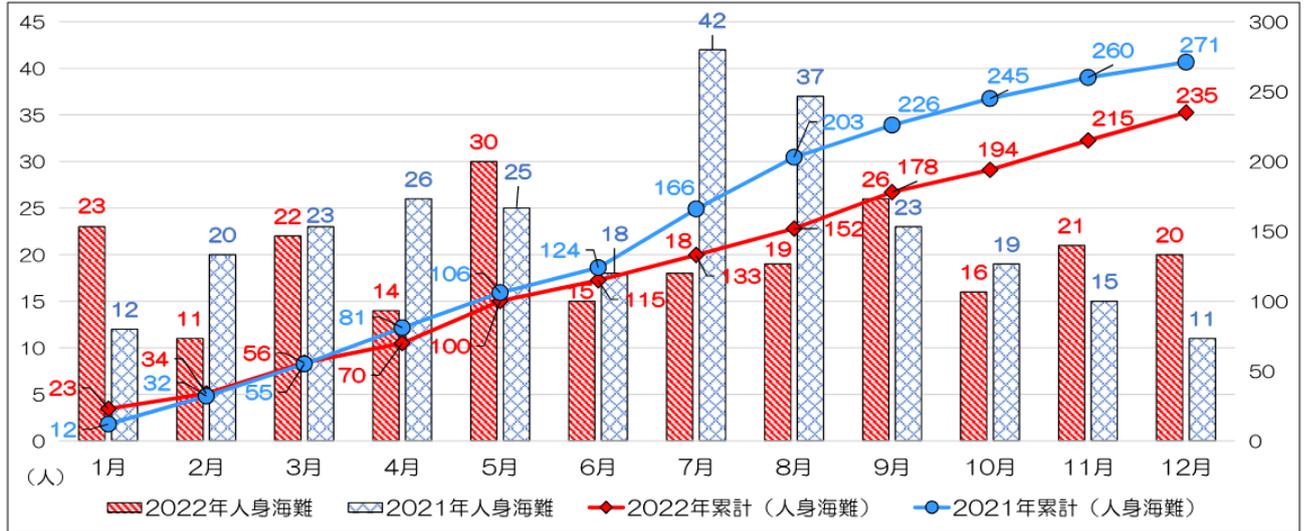
県別船舶種類別発生状況（令和4年：速報値）

船舶種類	山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	大分県
プレジャーボート	12	53	18	33	19
漁船	8	25	8	27	10
貨物船	8	20	2	4	5
遊漁船	0	6	1	6	2
その他	2	19	2	11	8
総計	30	123	31	81	44

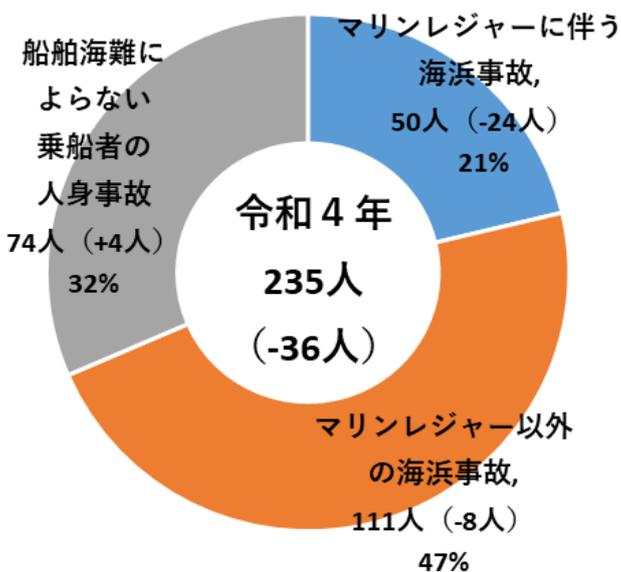
人身事故の発生状況

2022年は速報値  
2021年は確定値

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2022年人身海難	23	11	22	14	30	15	18	19	26	16	21	20
2021年人身海難	12	20	23	26	25	18	42	37	23	19	15	11
前年差	11	-9	-1	-12	5	-3	-24	-18	3	-3	6	9
2022年累計(人身海難)	23	34	56	70	100	115	133	152	178	194	215	235
2021年累計(人身海難)	12	32	55	81	106	124	166	203	226	245	260	271
前年累積差	11	2	1	-11	-6	-9	-33	-51	-48	-51	-45	-36

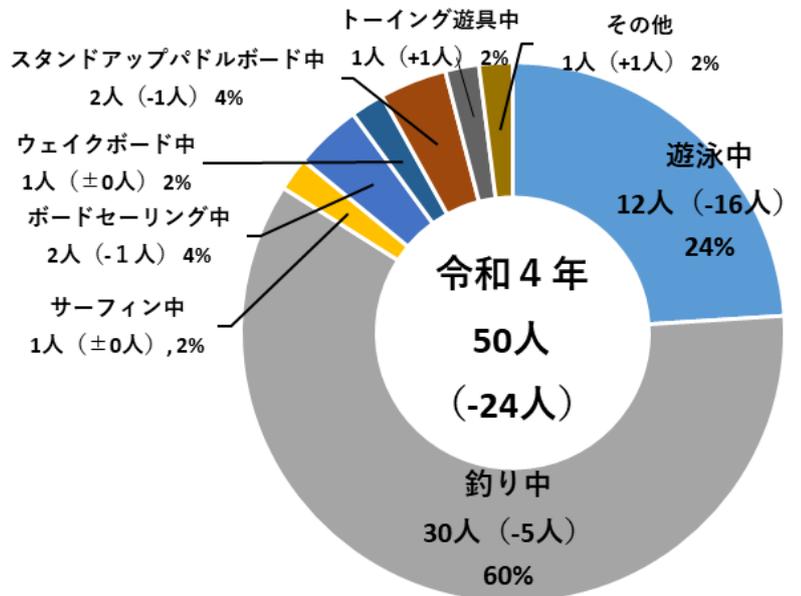


事故区分発生状況

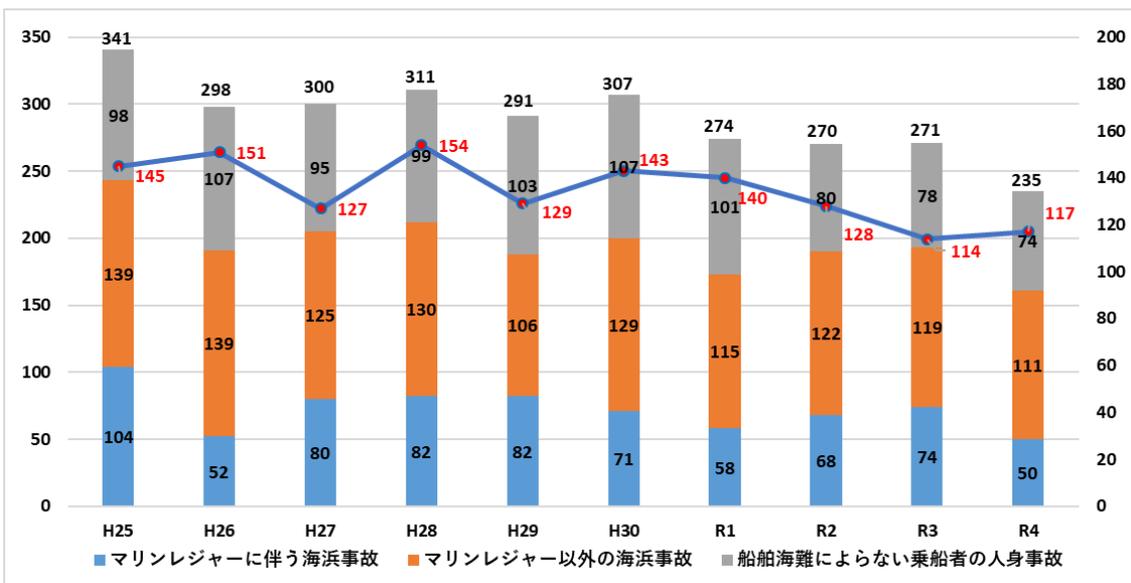


活動種類別発生状況

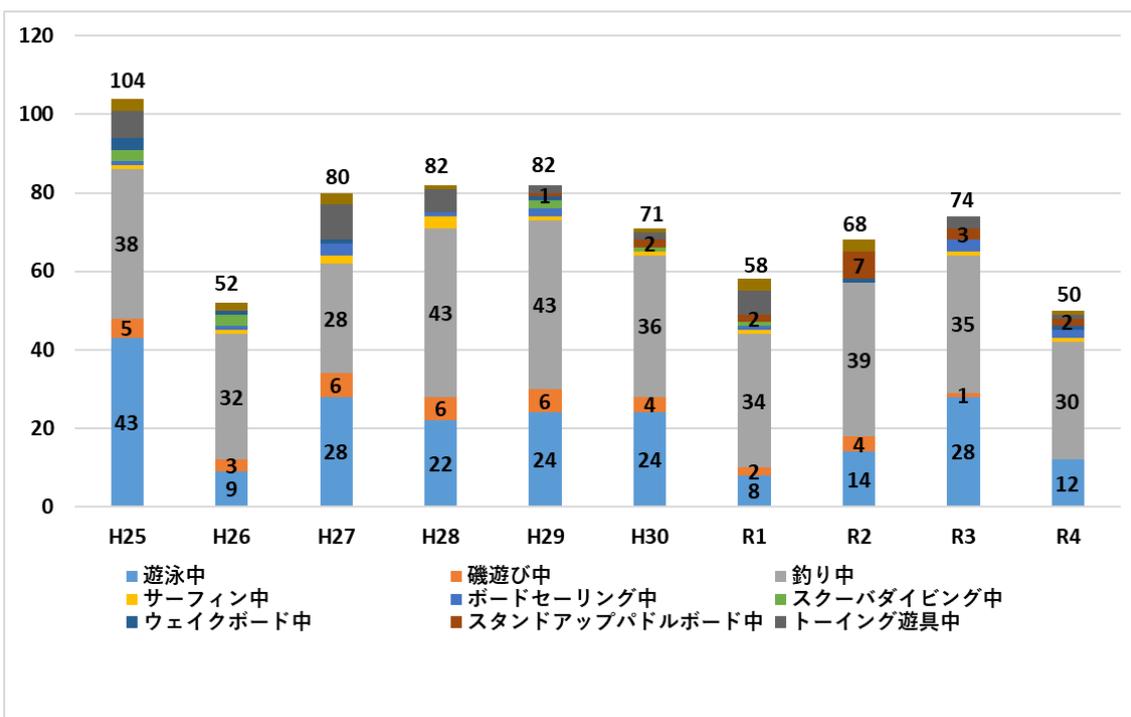
(マリンレジャーに伴う海浜事故)



事故区別発生状況（過去10年間（H25～R4）） R4は速報値：令和5年1月1日現在  
 ※赤字は死者・行方不明者数



マリトレジャー活動内容別発生状況（過去10年間（H25～R4）） R4は速報値：令和5年1月1日現在



県別事故区別発生状況（令和4年：速報値）

事故区分	山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	大分県
マリレに伴う海浜事故	5	18	6	15	6
マリレ以外の海浜事故	12	49	7	29	14
船舶海難によらない乗船者の人身事故	14	20	8	26	3
総計	31	87	21	70	23